
わたしのなまえ

月野魚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わたしのなまえ

【Nコード】

N8916H

【作者名】

月野魚

【あらすじ】

抱いては捨てた言葉たちを、拾い集めてくれる誰かを探して。

曖昧に生きたわたしの代償

償いましょう

償いましょう

あなたがそれを

罪だと言うのなら

償いましょう

償いましょう

わたしには正しさなど

分からないから

あなたと世界を

逆さまに生きたあの日

わたしは束の間の夢に落ちて

待っていたのは煉獄の炎

けれどわたしは

罪にまみれたまま

幾つもの夜を生きました

ああ、悪いのはわたしです

正しさも誤りも
どちらも分からない
わたしが悪いのです

償いましょう
償いましょう

あなたが罰を下すのなら

償いましょう
償いましょう

わたしは喜んで
それを受け入れましょう

あなたはとても卑怯

曖昧に生きた
わたしの行く末を
満月に似た瞳で
見つめるだけ

だけどわたしには
それさえ
正しいのか誤りなのか
分からない

わたしには意思が
存在しないのですから

償いましょう
償いましょう

あなたが振りかざすものなら

償いましょう
償いましょう

例え悪でもわたしには正義

例え剣でもわたしには花束

償いましょう
償いましょう

悪いのはわたし
そう

曖昧に生きたわたし

青い薔薇／無音（前書き）

字数が足りなかったので二つ一緒に公開してあります。

青い薔薇／無音

■青い薔薇

優しくないわ

ほら、棘があるでしょう

触れられないわ

ほら、血が伝うでしょう

絡まる朱 あなたの指に

細く捻れる 赤い糸

だけれど、わたしは悪くないわ

だって、これも何かを守るため

青く青く光るわたしの

花びらなの？ 魂なの？

どちらでもいいわ、

そんなこと今さら

だって、もうこの茨の渦の中

綺麗ですか

ねえ、こんなに枯れ果てても

見てくださいか

ねえ、黒に染まっても

落ちた滴 わたしの頬に
雨より素敵よ あなたの涙

だけれど、わたしは素直じゃないわ
だって、これも誰かを守るため

赤く赤く落ちるあなたの
血潮かしら？ 生命かしら？

どちらでもいいわ、
そんなこと今さら

だって、もうこの茨を抜けたでしょう

■無音

たっぷり傷ついた後に
癒されるのが、
たまらなく心地良いの。

さあ、早く、
わたしを八つ裂きにして頂戴。それから、優しく、
傷を撫でて頂戴。

ほんとにわたし、酔狂だわ。

アナタノ声モ響カナイ。

ただ欲しいのは、最高の治癒。

アナタノ声モ響カナイ。

なんて無音なわたしのところ。

わたしもあなたも望んでいるのだから。

罵られて、蹴って殴られて、傷つき過ぎて一周して、元の自分に戻るのを。

ほんとにとっても、酔狂だわ。

誰もが自分の存在を

否定したとして、

尚もそこに

居なければならぬとき、

傷ついているのだと

気付かないほどに狂うのを、
望んでいるのだから。

アナタノ声モ響カナイ
なんて無音なわたしのこころ。

そうしてしにたいの／＼コト、バ／＼可憐に、嘲笑を。

■そうしてしにたいの

枯れて しぬ より
散って しに、

この身が土へとかえって
万物の贅となる。

そうしてわたしは
しにたいの。

なのにどうして世界は
わたしがここから去ろうとするときだけ優しくするの。

どうか、同情はやめて。

何の未練もなく しもう と思ってたのに。

無事に しもう と思ってたのに。

優しいあなた、どうか邪魔をしないで。

■ コト、バ

言葉は無意味に過ぎないと
哀しくあなたが囁くから、

言葉は不必要なのですかと
淋しくわたしは呟いた。

わたしの言葉が消えて、
あなたの言葉が滑り出す。

言葉は無意味に過ぎないけれど、
言葉は不必要ではないのだと。

それは、あなただからだと。
それは、言葉を発するのが
あなただからだと。

わたしはあなたにもっと
言葉を求めたけれど、

あなたの言葉はもう届かない。

だからわたしたちは、
哀しく淋しく、
理由を見つけて生きてゆく。

■可憐に、嘲笑を。

愛しいこの世界で

もしもあなたと二人なら。

あなたは冷淡に、微笑を。

わたしは可憐に、嘲笑を。

過ぎ行くこの瞬間を

もしもあなたと二人なら。

きつと互いを疎んじ、

ただただ終末を願うだけ。

手繰れ手繰れ 運命の糸

啜れ啜れ 今際の血

あなたはそうして懸命に。

わたしはこうして卑劣に。

早く今が過ぎないか、

空虚な時間の穴埋めに。

あなたは どうして そんなに懸命に。
わたしは それゆえ こんなに卑劣に。

生きる時間を持て余し、
ただその一瞬の戯れに。

同じ世界に囲まれて。

くるり／悲劇のヒロイン

■くるり

緩やかにまわる思いに

酔いしれて

眩しいほど色付くぼくらは

閃光になる

朝焼けに眠る町を眼下に

ぼくらはくるりと宙をまわる

観覧車は退屈

機械に命じられた単純作業

ただまわるだけ

だけれど、

ふいに乗ってみたくなる

この世界の全部を見たくなる

上がって下がってぼくらの思い
くるくるまわるきれいな夢の中

全てが永遠でないことを知らずに

溢れかえる光に目を細めたら、

ぼやけて見えた世界に
きみの姿を探して

いつになったら逃げ出せるか
夢を見せる、この機械から

きみのいる心地良い時間に揺られて、同時に錯綜するぼくは、
心のどこかで思っている

ふたつの思いがこの世界で、
交差するのを待ちながら

■悲劇のヒロイン

私が否定されてしまったから
涙でもひとつ、零しましょうか。

あな苦し。

暗闇に光る幾千の瞳は、
私を照らすスポットライト。

心は悲しみに溢れて、
そこに絶望がまぶされる。

悲劇のヒロインは、
なんて甘い味がするのだろう。

だれも私を見てくれないから
泣き声でも今、上げましょうか。

いと辛し。

離れていくものは、
夜空の星より数多く。

顔は悲痛で歪み、
軽蔑の眼差しで追い討ち。

悲劇のヒロインは、
なんて苦い味がするのだろう。

おとぎ話のお姫様は、
みんな悲劇がすき。

劇的で美麗。

悲劇のヒロインは、
陶醉と恍惚の化身。

自分でまぶした絶望と
軽蔑の眼差しを、
少しなめてみる。

そうしたらいつも私、
やっと世界に気付いて
夢から醒める。

わたしのなまえ

貴方との秘密が増えた

目をそらしても

耳をふさいでも

消えない貴方との秘密

貴方との秘密が増えた

耳元でそつと

ささやかれて

脳髓に流れ込む秘密

わたしのなまえを暗号に変えて

「誰にも分からないように」と

貴方はわたしのなまえを

呼ばなくなった

わたしは暗号になった

わたしのなまえは暗号になった

貴方が独り占めするから

わたしは暗号になった

わたしは膝を抱えて
震えながら耐える

いつか貴方のところが
離れていく恐怖に

貴方との約束を破った
その手を離しても
また捕らえられても

証明しなかったわたしの存在

積み上げた貴方との秘密
一途に貴方を思えたなら、
きれいに輝いてみえたのに

わたしは記号になった
わたしのなまえは記号になった

貴方のところが届かなくなったから、
わたしのなまえは記号になった

「わたし」を表す記号ができた
貴方の声が無機質に響く

わたしのなまえは、
何のためにあるのだろう

他のひとと区別するため？

そっと呼んで欲しかった

くすぐったくなるような
その感覚が欲しかった

そっと呼んで欲しかった

貴方との秘密が増えた

目をそらしても

耳をふさいでも

消えない貴方との秘密

貴方はわたしのなまえを
呼ばなくなった

わたしは暗号になった
わたしのなまえは暗号になった

貴方が独り占めするから
わたしは暗号になった

わたしは膝を抱えて
震えながら耐える

貴方がわたしのなまえを
忘れたかもしれない
という恐怖に

わたしのなまえ（後書き）

最後まで読んで頂き、ありがとうございます。

最初と最後の詩以外は、自分で作詞作曲するという音楽の授業のときに考えたものです（思い出せなかったくらいずっと前）。

結局、グループですることになったので使うことはありませんでしたが、またここで掘り返しました。

拙い文章でしたが、何か心に残れば幸いです。

わたしの内側で眠っていた、ひどくありふれた言葉を拾って下さり、ありがとうございます。

それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8916h/>

わたしのなまえ

2010年12月22日02時35分発行